

1 東京都歯科保健推進計画「いい歯東京」

・計画期間 2018年度から2023年度

・都民の目指す姿 「都民がいつまでもおいしく食べ、笑顔で人生を過ごすことができること」

計画を推進する取組と指標



ライフステージに応じた歯と口の健康づくりの推進

	特徴	取組	指標
<p>乳幼児期 (～5歳)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○乳歯が生え、食べる機能を獲得する時期 ○乳歯はむし歯(う蝕)になりやすいため、保護者の仕上げみがきや定期的な予防処置が大切な時期 	<ul style="list-style-type: none"> ○むし歯(う蝕)予防と口腔機能の獲得への支援 ○フッ化物配合歯磨剤の効果や砂糖(スクロース)の摂り方の啓発 ○かかりつけ歯科医を持つ習慣を身につけることを啓発 ○多数のむし歯(う蝕)のある子供や保護者に対する支援 	<p>(3歳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○むし歯(う蝕)のない者の割合 88.5%⇒90% ○甘味飲料をほぼ毎日飲む者の割合 26.0%⇒減少 ○ゆつくりよく噛む習慣づけをしている者の割合 59.4%⇒増加 ○かかりつけ歯科医を持っている者の割合 48.5%⇒65% ○かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合 43.3%⇒60%
<p>学齢期 (6歳～17歳)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○乳歯から永久歯に生えかわる時期 ○進芽等によりライフスタイルの変化が起こる時期であり、むし歯(う蝕)や歯周病の予防と生活習慣の改善に自ら取り組む習慣をつけることが大切な時期 	<ul style="list-style-type: none"> ○むし歯(う蝕)や歯周病の予防とともに、口腔機能や食育に着目した支援 ○口腔ケアの習慣や生活習慣の基礎を身につけることを啓発 ○定期的な歯科健診や予防処置の習慣化を啓発 ○中・高生を対象とした歯科保健行動の美態把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○むし歯(う蝕)のない者の割合(12歳) 64.0%⇒70%(17歳) 45.0%⇒60% ○歯肉に炎症所見のある者の割合(17歳) 26.5%⇒20% ○フッ化物配合歯磨剤を使用する者の割合(12歳) 29.8%⇒70% ○かかりつけ歯科医を持っている者の割合(12歳) 57.6%⇒80% ○かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合(12歳) 38.3%⇒55%
<p>成人期 (18歳～64歳)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歯周病の増加と悪化が進む時期 ○自分の歯や口の健康に対する関心が薄れる時期であるが、自ら行う口腔ケアと定期的な健診や予防処置が大切な時期 	<ul style="list-style-type: none"> ○青年期を対象に、口腔ケアの知識や歯周病予防の大切さを啓発 ○全身の健康と歯周病の深い関わりについての啓発 ○全身疾患の治療に対する歯科連携の推進 ○周術期の口腔機能管理を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○喪失歯のない者の割合(35歳～44歳) 63.6%⇒75% ○24歳以上ある者の割合(55歳～64歳) 70.0%⇒増加 ○運行した歯周病を有する者の割合(40歳～49歳) 40.8%⇒30% ○フッ化物配合歯磨剤を使用する者の割合 30.9%⇒70% ○デンタルフロスや歯間ブラシを週1回以上使用している者の割合 62.1%⇒70%(歯周病) ○糖尿病や喫煙が歯周病のリスクであることを知っている者の割合 54.3%⇒75% ○かかりつけ歯科医を持っている者の割合(20歳～64歳) 86.7%⇒90% ○かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合(20歳～64歳) 58.0%⇒70%
<p>高齢期 (65歳～)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歯の喪失が進み、口腔機能が低下する時期 ○フレイル予防のために、食べる、話す、笑うといった口腔機能を十分に使い、口腔ケアを続けることが大切な時期 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢期の歯や口の特徴を踏まえたむし歯(う蝕)の予防や歯周病の予防を啓発 ○生涯を通じて食事や会話を楽しむことができる口腔機能の維持を支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○8020を達成した者の割合(75歳～84歳) 55.5%⇒増加 ○フッ化物配合歯磨剤を使用する者の割合 25.2%⇒70% ○デンタルフロスや歯間ブラシを週1回以上使用している者の割合 59.5%⇒70% ○糖尿病が歯周病のリスクであることを知っている者の割合 53.7%⇒70% ○かかりつけ歯科医を持っている者の割合(65歳以上) 96.2%⇒増加 ○かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合(65歳以上) 64.6%⇒70%

かかりつけ歯科医での予防管理の定着・医科歯科連携の推進



特徴	取組	指標
<p><かかりつけ歯科医の機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ライフステージに応じて、 ①定期的・継続的に口腔衛生管理を行う ②必要に応じて口腔機能管理を行う ③必要に応じて医療・介護のコーディネーターとなる <p><医科歯科連携の意義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全身の健康と歯周病との深い関わりや誤嚥性肺炎の予防、周術期等の口腔内合併症の予防、在宅療養や摂食嚥下機能の支援などの面から、医科と歯科が連携し、歯と口の健康と全身の健康の両面からの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○かかりつけ歯科医の機能を正しく理解し、生涯を通じて自ら口腔ケアに取り組みとともに、かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診や予防処置を受けけるよう啓発 ○全身疾患がある方の治療に、医科と歯科が連携して対応することを推進 ○周術期口腔ケアに対応する歯科医療従事者を育成し、病院との連携を推進 ○かかりつけ医や病院と情報共有を図り、在宅療養者の歯と口の健康を維持することができるよう支援 ○摂食嚥下機能を支える人材の育成・多職種連携によるチーム医療の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○かかりつけ歯科医を持っている者の割合 (3歳児)48.5%⇒65% (12歳)57.6%⇒80% (20～64歳)86.7%⇒90% (65歳以上)96.2%⇒増加 ○かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合 (3歳児)43.3%⇒60% (12歳)38.3%⇒55% (20歳～64歳)58.0%⇒70% (65歳以上)64.6%⇒70% ○障害者施設利用者のうち、かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受けける者の割合 (医療型障害児入所施設を除く) 78.8%⇒90% ○周術期口腔ケアにおける医科歯科連携を行っている歯科診療所の割合 21.8%⇒30%

地域で支える障害者歯科医療の推進



特徴	取組	指標
<ul style="list-style-type: none"> ○むし歯（う蝕）や歯周病のリスクが高い ○環境の変化や治療に対する理解が難しい場合があるため、かかりつけ歯科医を持って、定期的な予防処置を受けけることが大切 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族や施設職員に口腔ケアや予防処置の重要性を啓発 ○身近な地域で口腔衛生管理を行うかかりつけ歯科医の育成 ○口腔機能管理を行う歯科医師の育成 ○地域の実情に応じた機能の分担と連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者施設利用者のうち、かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受けける者の割合 78.8%⇒90% ○障害者施設等で定期的な歯科健診を実施している割合 57.4%⇒70% ○障害者に対応する歯科診療所 42.7%⇒50%

在宅療養者のQOLを支える在宅歯科医療体制の推進



特徴	取組	指標
<ul style="list-style-type: none"> ○口腔内が不衛生になることや口腔機能の低下により誤嚥性肺炎を起こしやすい ○摂食嚥下機能の低下を防ぎ、歯と口の健康を保つことによりQOLを維持・向上することが大切 	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅療養を支える家族や介護職へ在宅療養者の歯と口の健康を保つことの意義等を普及啓発 ○研修会の実施等による在宅歯科医療に携わる歯科医師の確保と育成 ○多職種に対する歯科の知識の普及等による医療・介護の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅医療サービスを実施している歯科診療所 13.5%⇒増加 ○介護保険施設等で定期的な歯科健診を実施している割合 21.1%⇒50%